

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

1 分科会 人権確立をめざす学校・園・所づくり

- ・報告、発言者の方の地域が、どちらかという小規模や過疎の地域の方が多く、数十年前の地元の状態を思い出した。また、保幼小中の連携をと言われつつ、お互いのことを知っている、分かり合えている部分ってほんの一部なのだと驚いた。0～18才までとは言い過ぎかも知れないが、児童がどう成長していくのかの一部を担うものとして、情報交換が必要だと感じた。自園にも「フジバカマ」を増やしたい。課題が多すぎたようだ。
- ・司会者がすごく負担に感じた。次回もし、自分になってしまったら…。内容は、後半「人権」が出て人権の研修内容で、緊張感のある話し合いになった。
- ・三田市の「虹のプロジェクト」について、生徒が主体的に取り組み変容していく過程が、具体的に理解することができた。2013年から根気強く取り組まれてきたことに組織力を感じた。
- ・早い段階から、自分と異なる立場の人を知り触れ合っていくことは「認めあう」素地になるので大事だと思った。
- ・3つの実践報告や他の園小中の話や意見を聞き勉強になった。自園でも取り入れようと思った。
- ・園所小中、それぞれの取組があり、勉強になった。園所には園所のやり方、ほんとうに色々考えているなと思った。園所は小との連携。小は、中との連携。中学校では地域との連携で、子どもたちのことを考えて無理なくしていると思った。中学校にもなると自主的のいろいろでき創っていることを知り勉強になった。
- ・人権を大切にしたい学校経営について考える良い機会となった。
- ・自分の知識不足でもあるが「解放学級」「すぎのこ学級」など分からなかった。私はこども園で働く者で、同和問題も知っているが、専門的用語が分からずやや不満足だった。
- ・もう少し現在の園所の子どもの様子を知って欲しいと思った。地域も保護者も子どもも変化しつつあることをもう少し伝えたかった。
- ・「差別の現実から深く学ぶ」という部分は、大切にしたい。一つの実践がそことどう繋がっているのかは、常に意識しておく必要があると思った。

2 分科会 人権感覚の素地を培う保育・教育

- ・幼小中の連携が大切さをとても感じた。
- ・報告内容が身近な内容で、自分のこととしてとらえ、考えることができた。他園の先生方や小学校の先生など、いろんな立場の方の目線から意見を聞くことができ学びになった。
- ・初めて保育の分科会に参加させていただき、違う職場で日々実践されている中での課題や対応の仕方についてのお話をグループ討議の時間に聞くことができた。学ぶことが多かった。それぞれの園で自尊感情の向上をめざした取組がされていて、きめ細かい継続した指導、状況や発達段階、子どもたち一人一人に応じた指導が大切だと分かった。
- ・3本の発表があったが、冊子をそのまま読むだけで中身がいまいち入ってこない時があった。活動や写真など聞いているものが「なるほど」と思える発表を統一して欲しい。
- ・様々な校種の方と話ができて良かった。分科会の実践を受けて話をするのであれば、2本ぐらいにしてじっくり話せることもよかったと思う。3本だった上に、多くの方が参加されていたため十分に皆さんの話が聞けなかったのでは？「互いに知ろうとすること」の大切さを再認識した。是非、若い教諭・保

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

育士の参加を増やして欲しい。考える良い機会を与えてもらえた。感謝。

- ・ 幼児期が人権教育の基本であること、話し合いの中で改めて認識できた。日々の教育、保育の中に当たり前に人権教育としての基本的な感情を身につけることを積み重ねたい。
- ・ 「ごめんね」「いいよ」という表面的なやりとりも、必ずどちらもフォローして二人を結びつけようと思った。
- ・ クラスで「ごめん」「ありがとう」が表面化されていること等気になっていた。どうして「ごめんね」なのか等、人の気持ちに気づけるように働きかけをしっかりとしていこうと思った。また、認め合い子どもたちの自尊心を高めていきたいと思った。
- ・ 幼児同士のやりとりが人権にもつながると改めて感じ、子どもの様子をよく見て、瞬間、タイミングを逃がさずに声かけ指導をしたり子ども自身が気づけるようにしていったりすることの大切さを感じた。また、自然環境とのかかわりが生命を大切にすることにつながると感じた。
- ・ 発表の後グループ討議があったので、いろいろな施設での様子や取組を知ることができて良かった。
- ・ 小グループに分かれて討議するのは意見も出やすく良いことだが、隣同士がくっついているので、聞き
- ・ 司会者が上手くまとめてくれたのでとても良い会になっていたと思う。他市の方との意見交流がグループでできて良かった。多数参加だったので一人が発表ということがなかなかでき難い会だったので「グループ」で話ができることがスムーズな討論になったと思う。
- ・ 初めて参加したが、流れが今一分からず困惑した。もう少し詳しく案内していただければと思った。また、内容が似ていたのが残念だった。
- ・ 特性をもつ子、気になる子、全てを含んだ園、学校の全児童に対して「一人一人を大切にする」には…、といろいろと考えさせられた。
- ・ 保育、教育現場の職員ではないが、皆さんの熱心な討議を頼もしく感じた。現場での細やかな関わりを知ることができ、楽しい時間となった。
- ・ 人権についてもだが、内容・テーマがとても難しいと感じながら参加したが、会が始まり、皆さんの意見も出てきて、同じことを感じておられたり、そういうこともあるのかと新しい人の思いも聞くことができたりして勉強になった。
- ・ 参加者がもう少し質問をしてくれると会も進みやすいと感じた。

3A 分科会 人権・同和学习

- ・ いろいろな思い、背景は尊重すべきだし否定はしないけれど、何を学びに来ているのかが参加者がつかめるような会になって欲しい。発表された方が質疑を受けて、納得されるような話し合いになるように司会される方は展開を考えて欲しい。一人の発言に左右されないように。
- ・ 発表者、司会者、一般参加者とも「共に学ぶ姿勢」が大切だと思う。特に若い発表者を育てることが大切だと思う。
- ・ 「人にされて嫌なことはしない」大人も子どもも同じだと思う。実践に改善すべきところがあっても、相手に伝わる言い方をすべきです。聞いていて嫌な気持ちになりました。
- ・ 先輩の先生方から人権のお話を聞いて、差別された方を「知る」のではなく「共感」することが大切だということが分かりました。ただ、発表者を全否定されている方がおり、いくら人権に対しての考えがあったとしても働き始めて2年目の私としては、前向きになれない場面でした。

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

- ・熱い発言が出ており、良い体験となった。
- ・部落問題解決に向けての熱意はよく分かるが、「学び合う場」という発言があったように、発言される方も相手のことを考えた言い方が大事だと思った。発言を聞くことも大事だが、「対話的な学び」と言われているので、近くの方との話し合いの時間をとって良かったと思った。
- ・分科会は、意見を出す方が発表者のことを上から喧嘩腰で否定しなかった。確かにそういう意見もあると思うが、そんなに上から勉強不足だと言えるということは、お互いに学び合うことがコンセプトの会、人権が大切だと言っているこの会において、相手を尊重できないというのはどういうことなのか。しかもその発言をした方が、定年を迎えられているベテランの方だということが更に悲しくなった。学びたいと思っていたけれど、もう何とも悲しくなった。教師は、上から意見する人が多いと思う。討論ならばきちんと対等に討論できればと思った。
- ・分科会では、多くの意見が出た。それぞれ熱い思いをもっておられ、口調や言葉がきつくなる場面があり、報告者の方々の心情を思うと何とも言えない感じがした。しかし、報告者の方々が真摯に答えておられ、改善するために休憩時間に教える姿を見て、学ぶことができました。「人権教育って…」と考えさせられた分科会だった。
- ・人権教育と福祉教育の視点、それぞれをしっかりとって指導にあたる必要がある。今日の報告の中には、福祉教育の視点と思われるものがあつた。同和問題についてはたくさん学ばせていただいた。自分の不勉強を感じた。
- ・初めての参加で、学ぶことがたくさんあり自分の無知さを痛感させられた。難しい問題だけれど目をそらしてはいけない問題だと思う。先輩の先生方に教えていただいたことを学校にもち帰り、子どもたちと考えていきたい。
- ・参加された方の意見で、考えなければならない私の学校の課題が多くあると改めて気づいた。私の学校は、私立。尼崎を中心に様々な地域から通学している。部落学習にも各地域で温度差があると思ったが、私たちの学校でしかできない目の前の子どもたちの現状にそくした生きた学習ができるように研修が必要だと感じた。
- ・自分の人権意識を常に磨いておかなければいけないことに改めて気づかされた。たくさんの討議があり、この場に参加させていただけたことをありがたく思った。
- ・たくさんの意見が出る中で、教師の学びの必要性を実感した。レポート3本は、よきたたき台となつたし、自分の人権感覚を見直す良い機会になった。感謝。識字学級に通われている宝塚の方のお話がじ〜んときた。生徒に聞かせたい。
- ・同和問題についての質疑や意見が地元同教の時よりも鋭く活発だった。中学校の同和教育(学習)を構築するうえでよく勉強させていただいた。
- ・久しぶりに部落問題解消への取組の報告があり、討議も良かったと思う。私たちが取り組まなければならない「差別をする側の問題」にもっと取り組まなければならない。
- ・発表された方、報告者の皆さん、司会の方の言葉、全てよくわかり私自身たくさん頭を使った。とても楽しかった。なぜ差別がなくなるのか？脳の仕組みを利用した教育をしていくのが結果につながるなと思った。全ての人々にやさしく楽しく理解者になればと思った。
- ・前任者の方からの引継ぎがなかったり、異動してきて1年目の方からの報告で、今年度の活動につながる取組が見えてこなかったりした部分が多かった。

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

- ・それぞれの学校の取組報告があり、多く学ぶことがあった。また、意見も厳しくも鋭い視点のものが多く、自分の勉強不足さを感じた。改めて「人権」は、すごく深いなと思った。
- ・こんなに暑く討論したことがなかったので、すごく刺激を受けた。もっと勉強しなければならないと感じた。良い機会になった。
- ・「学び合う姿勢でいこう」ということで、少しやわらいだが、途中少し言い合いになり、重苦しい感じだった。でも、学ぶことはたくさんあった。

3B 分科会 人権・同和学习

- ・人権研修に非常に熱心な職場にいた関係で、同和問題等人権問題は理解しているつもりである。経験少ない先生は指導が大変だと思うが、頑張っで欲しいと思う。人権感覚を養う、部落差別に対し勇気をもって対応できる人材を育成して欲しいと思う。
- ・学校の教職員以外の方のお話が聞けて、たいへん参考になった。また、小中高校での取組を聞き、まだまだ勉強、研修をしていく必要があると感じた。特に、部落問題について若い先生たちに伝え一緒に学んでいきたいと思った。
- ・同和学习についてスポットが当たり、地道な取組が発表されて驚きと安心もした。私自身も同和学习ができていないことが課題であると考えていた。その課題、克服のために動いていかなければならないと思った。
- ・様々な職種、年代の方々が参加されており、たくさんのお話意見が聞けてたいへん勉強になった。高校でも人権・同和教育されているところは多い。現に前任校では、全学年人権学習をしていた。何度も学年会や校内担当者会を開き、授業内容を練って行っていた。今回の発表で高校ではしていないように感じられたかも知れないが、ここに書かせていただく。若い者が発言できる雰囲気ではなかった。
- ・人権同和学习について、若い先生方が熱心にされているのに感心した。
- ・様々な立場の方から熱いお話を聞かせていただき、胸が熱くなった。学び続けること、そして、伝え続けることを決してやめてはいけなと強く思った。
- ・私は、1年目で、人権について今まさに勉強中であるため色々な取組や意見を聞くことができて良かったです。とても勉強になった。
- ・実体験から語られること(結婚)があり、今日は有意義な時間でした。発表の方のご苦勞に感謝する。もっと勉強しようと思った。
- ・同和問題をまずは教員が学習して、授業をやることの必要性を強く感じた。正しい知識を生徒たちに伝えることが大事だと思った。学校では、しっかりと部落問題を教え差別と向き合い差別と闘う生徒を育てることの大切さを感じた。
- ・人権学習の中でも同和学习について、現時点でどのような取組なのか、どのような方向に向かっているのか、どのように今後取り組んでいくべきなのか、分からないことが今日の研究会で見えてきた。
- ・学校での人権学習の充実を今以上に考えることが重要だと思った。地域によって温度差ができてはいけないことなので。
- ・たつのの発表は、熱が伝わりとても学習されていた。経験年数の短い中で地域から学ぼうという姿勢が発表から伺えた。今後の先生としての飛躍に期待する。
- ・前回の参加は、10年以上前のことだったが、前回に比べて分科会での発言が、格段にしやすくなった

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

と思った。

- ・小中の実践が、高校につながっていないことが残念だった。今回の小中高は、地域が異なるが、その地域の小中の取組を、せめて担当者は知っておくべきであると感じた。
- ・とても良い勉強になった。市として広めていきたい。
- ・今また部落差別が広がりつつある。学校が正しい知識を伝えなければ、かつての様な状況に戻ってしまう。
- ・久しぶりに参加したが、「差別の現実学ぶ」というテーマから部落問題についての議論ができたことはよかった。法ができたが、教育現場での実践や定着は難しいと感じた。実践を交流し続けることが大切だと思う。

4 分科会 進路学力保障

- ・社会で自立する力の育成が、学校教育の最低ゴールだと認識できました。「人が人を育てる」まさに、その通りだと考えます。教え込む教育から、自分で考え判断し解決していく力を育てる教育を目標としたい。また、教育を担うのは、学校だけではなく保護者や地域からの教育も欠かせない。みんなが一緒に考えていく環境が必要だと思う。更に、多くの職種や立場の方が参加する会にしていきたい。
- ・分科会を討論込みで運営するならば、座席の配置は、講義形式より円型・四角型が望ましいと思う。尚、教育現場における問題は、多岐にわたり山積みしているため、原則は論題の「進路保障」に的を絞って討議を展開するように司会進行する必要があるように感じた。
- ・中堅研として参加したが、資質の高い実践報告集や発表にふれることができ、大変満足できた。新指導要領の改定や教員の若年化など、教育現場の実態がどんどん変化していく中で、人権問題はなくなることのない問題である。兵人教のような価値のある協議会にもっと積極的に参加したいと思った。
- ・小中校の連携の必要性を痛感した。子どもを育てていく中で、とっても工夫と苦労があることが分かる。知ることから始めることがたくさんあるので、良い機会となった。
- ・発表を通して、自分自身や学校のことを振り返り、また頑張らないといけないと思った。
- ・中学校における人権同和学習の内容は、地域によって大きく異なることが分かった。しっかりとした「人権教育」につながり、進路保障も繋がっていくのではと再確認した。
- ・生徒一人一人子を大切にしている取り組みが行われている様子が分かった。同和問題と進路保障を結び付けた取組事例が、もっと降ればと感じた。

5 分科会 障がいのある人の人権

- ・インクルーシブのすべて一緒にするのか分けるのかの難しい議論のところが、深まる話を聞いたので良かった。その人の人権が一番守られる形をめざしていきたいです。
- ・「インクルーシブ」という言葉について、人によって考えが異なると強く感じた。こういうことをもっと話し合いたい。
- ・障がいのある人と共に学び、育ち合う環境を作り上げようということを再認識できたように思う。子ども同士も一緒の中で支え合いそだつ実践、障がいのある人たちと一緒に暮らすことで、生きる意義を考えられると思った。いろんな話が聞けて勉強になった。
- ・障がいのある子どもが周囲の子どもと共に育つにはどうしたらいいかという、インクルーシブや障が

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

い児教育について考えることができた。それぞれの過程で考えるべきことかとも思った。県あげての取組が素晴らしいと思った。

- ・様々な立場での意見を聞くことができた。垣根をなくしていくのは大人の方かもしれない。私が育ってきた時代は、情報もなく我慢するか、なるようになるかしかなかったが今でも対応が様々だという事実を知った。自分の力で生きていけるように育てていくことが全ての人の責任だと思う。
- ・障がいのある子どもたちが、その子のもち味、良さが生かされるために、学校全体、教職員の共通理解を大切に、その子の居場所づくりが重要であると思った。簡単に障がい者理解というけれども、一人ひとりの子どもたちのどのような面に目を向け育てていくのかを、しっかり考えて取り組んでいかなければならないと感じた。教師や周りの子どもたちが、共に生活していけることで何を学ばせてもらうか、学んでいくのかという視点をもちたい。
- ・障がいのあるなしに関係なく、すごいと思わせる取組をされており、まさにこれが人権の取組であると思ひ学ばせてもらいました。開級式の取組は、通常学級の子どもたちも行く方が良いのではないかと思います。(クラスみんなで発表の場を共有するという共に学ぶ仕組み)また、民間保育の就学指導について教育がなされていない実態を聞いて驚いた。当事者の思いをくみ取ることが大事である。(自分たちの声抜きで、自分たちのことを決めるな)
- ・やはり当事者の意見の重要性を実感した。共に生きるとは…この意味を考えて、実践に活かしたい。
- ・私自身小学校、中学校で周りに障がいのある子がいたが、普通に一緒に遊んでいてあまり深く考えることをしていなかったけど、今日の話聞いて、障がいのある方の人権について考えさせられた。
- ・学校、事業所で働いている方々の日々のお話が聞けて良かった。人はだれでも障がい者になる可能性があり、決して人ごとの話ではないと思う。なかなか平等という訳にはいかないが、人として対等であり、差別のない社会になるよう身近なところから声掛けをはじめたいと思う。
- ・支援学校で努力されていることが実を結んでいるのだなあと思った。成功体験の自己肯定感を重ねて、成長されていると感じた。交流の成長段階での学年を選ぶという対応に時代を感じた。私の子育て体験では、子どもは障がいのある子をそのまま受け入れる力をもっていると思っている。「〇〇ちゃんは、歩けへんから、これできへんから、ええねん」と、さっと手助けをしたり、普通に受け入れたりしていました。特別な医療補助が必要とか支援学級も必要と思う。でも、子どもたちは、大人や教育者が思うほど頼りなくはないと思う。私は、ホースセラピーを応援している。馬の背にまたがることにより表情の少なかった子が満面の笑みになったり、最初は支えられないと体を保てなかった子が、回数を重ねて支えられなくても体を支えられるようになったり、車いすで来ていた子が数年後に杖だけで歩いてきたりして、不思議な力を感じられる。

(私の子どもは、高校入試後クラスでいじめにあい学校へ行けなくなった。その時に、担任や学年主任は、「人間関係も学習ですから」と取り合ってくれなかった。半年の休学後、悩んで復学した。次年度の担任と学年の先生方は、1年上にいる加害生徒から守ってくださり、クラスメイトも守ってくれた。

子どもにとって、学校では先生第一。どうか、子どもたちを守る先生でいて欲しい。子どもは、国立大工学研究科の院を来春卒業する。)

- ・教育現場での実践だけでなく福祉施設の取組を聞くことができ、学びの多い一日となった。私自身特別支援学級を担任しているが、障害があっても自分らしく生きて欲しい、生活経験を増やしてあげたいといつも考えている。初めての担任であるため、なかなか手立てが思いつかず、難しさを感じるのだけれど

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

ど、今日の実践発表でヒントを戴けた。関わり合うこと、知ることが認め合うことにつながり、共に生きることに繋がるのだと感じた。また、保護者の方々の思いを聞くことができたのも、小学校教員として何ができるのか考えるきっかけとなった。

- ・障がいの有無に関わらず、お互いにちがいを認め合い、尊重し合えるように人権教育を進めていきたいと思う。そのためには、カリキュラムを立てて、学校全体で取り組むとともに交流を地域と連携していきたい。また、障がいをもつ子供が輝くことができるように合理的配慮やその子どもが主体的に参加できるように環境を整備したい。

6 分科会 多文化共生と人権

- ・報告者の発表がとても分かりやすく、今後の自分の職務に活かすことができる内容で、とても満足している。
- ・多文化共生と人権は、非常に参考になった。文化のちがい、国のちがい、民族のちがいによる差別、偏見による人権の無視をしてはいけなし、どう対応していけばよいのか非常に考えさせられた。
- ・非常に中身のある意義深い報告を2本とも聞くことができ勉強になった。長い時間をかけて準備していただいたのだと思う。(司会者の話す場面が、少し多すぎるのでは?と思った)
- ・在日韓国朝鮮人の歴史は、日本や他の歴史と共に少しずつ学ぶことが減っている。「なぜ名前が2つあるの」という疑問が出るのも当然かと思う。子どもの方がそういう人もいると思っても優劣はつけないと思う。大人からのすり込みで差別が引き継がれていると思う。反発もあると思うが大人の意識改革が必要と思う。
- ・素地を作ることの大切さを強く感じた。一見して外国人と分かるが故の様々な問題。逆に日本人と同じように見えるが故の問題。なかなか一緒に同じようには議論できないかもしれない。しかし、周りの人の価値観や意識を高める工夫をしていかなければならないと思った。それから、制度を作る行政支援がしっかりしていかなければならないと思った。
- ・分科会全体を見て、学校現場での報告が70~80%あるように思う。多文化共生社会は、学校現場よりも地域社会での取組が必要だと思うが?プレゼンの内容発表が今一つだった。何を言いたいのかが分かりづらかった。難しい問題かもしれないが、もう少し参加者の年齢や職業の幅が欲しい。
- ・様々な質問も出て、大変興味深かった。小学校と高校という異なる現場の発表が伺えて、とてもよかった。これからさらに外国籍の子どもたちの数が増えてくると思う。そのような現状の中で、貴重なお話が聞けて良かった。園田学園の先生が、イラン人と日本人との間に生まれたご経験を語ってくださったことが、とても興味深かった。
- ・司会者のしたいこと、進めたい方向がよく分からなかった。司会者の自分の意見が多かった。
- ・知識のある経験の豊富な方々の発言中心だったのが残念だった。現在、外国籍や外国にルーツのある児童生徒が増えていますが、ほとんどの学校や先生方は、受け入れが初めてです。目の前の子どもの受け入れに必死な状態です。つまり知らない人がほとんどです。共生を進める上で、共生の良さ具体的な各学級での対応、困っている、悩んでいることなどが交流できる分科会であるといいと思う。
- ・報告1は、当事者生徒のことからの問題としてではなく、外国(フィリピン)の方との交流から多文化共生教育をスタートされたことは、道徳の授業にないものを実行されたことはよいと思った。報告2は、LGBTのカミングアウトと同様に、取組を進めた先生のように信頼を寄せる話やすい先生を必要とす

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

と思った。

- ・司会の先生喋りすぎでした（笑）話の内容はよく分かりましたが…。報告は2本ともとても興味深く聞かせてもらった。質問したいこともあったが、聞けなかった。
- ・身内や教え子に外国籍の方がおり、考える機会をもらいたいとこの分科会に参加した。初め知ったことも多くいろいろな例や報告を聞くことができて良かった。
- ・たくさんの質問が出て、それに対する答えや補足をしてくださる方がおり、知らなかったことを知ることができたいへん勉強になった。
- ・本名宣言の意味や背景を討議でもう少し深めたかった。
- ・差別の現実から学ぶことの重要性を知った。身の回りにあるさまざまな差別の現実に学び、自らの意識を変えたいと思った。大変勉強になった。

7 分科会 男女の共生と人権

- ・発表者の話は分かりやすかった。
- ・分科会は、グループワークで引っ張っているように感じた。もう少し短縮してはどうか。
- ・分科会の参加型は良かったが、テーマの焦点化にもう少し工夫が必要だと感じた。
- ・様々な地域の方と色々な話ができたことが良かった。
- ・参加者の方と、グループワークでそれぞれの家庭生活の課題や思いを共有することができたことが良かった。丹波市の男女共同参画センターの設立話はとても興味をもって聞けた。但馬でも、こういう取組に積極的になって欲しい。
- ・グループワークが良かった。思いも語れたし人の意見も聞けた。
- ・介護や育児は、24時間年中無休であるため、家庭や兄弟の協力が必要不可欠であると感じた。「男尊女卑」の根強い意識は、意外と女性に残っているということは印象に残った。会社や家庭から「無意識の偏見」を排除していかなければならないのだと思った。
- ・西人教、阪人教、兵人教とほぼ同じような討議課題なので学校教育のこと発展があるのかなと思っていた。2本とも、社会教育の発表であったので、何とか配慮してもらいたい。3人の発表がある分科会がほとんどなのでどの分科会も3人を望む。
- ・自治会に温度差のあることを知る。
- ・まだまだ、男女共生が進んでいないことを実感した。教育現場において子どもたちに教育することが大切。（難しい問題やなあ〜）で片づけてしまうのはどうか。これでは何も進まない。
- ・本音が言える分科会に。
- ・自治会長、自治会役員に女性選出す施策づくり、悪しき慣習の改善を急ぐ必要あり。
- ・いろいろな意見が聞けて、これからの生活に役立てたい。
- ・「誰もが無意識の偏見をもっているということを自覚する」という言葉、その通りだと思った。
- ・司会者の総括が要点を捉えていて、良く整理されていた。
- ・更生保護のボランティアと愛育班、その他の家事と忙しくしている。皆さんと、お会いできて嬉しかった。中央大会は初めてだったけれど、来年からは、参加したい。地元大会へは毎年参加している。

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

8 分科会 高齢者の人権と福祉

- ・これから本格的に高齢者の仲間入りする私にとって、たいへん参考になった。高齢者、障がいのある人が生きがいをもって元気に暮らせる社会に向けて頑張りたいと思った。
- ・実践発表は良かったが、討議の段階で個人的な意見が長くてどうかなと思った。
- ・活発な意見交換がなされていた。聞いていて楽しかった。
- ・老人会の同じ悩みを抱えているところが多いことが分かった。
- ・地域活動も差があり、経済的に成立しないなど、なかなか地域参加に協力、思いやりが生じないと思う。思いやり感謝の心は、とても大切なことと思う。活動に積極的に参加したいとは思っている。たいへん良い学びをした。メリットがあった。高齢社会で、健康な方ばかりではないと思うが、市からの予算が少ないので、予算が成立しない区もあり、地域差があることに気づいた。
- ・実践報告3項について、それぞれ実践継続するためには何が必要なのか?2項目については、私には知見的に経験がないので専門的に分かりやすく理解を深めたい。
- ・人と人の関係が難しくなっていると思う。いろいろな立場からの意見があって、何が正解、正義なのかが分からない。
- ・超高齢社会、少子高齢化の現状を踏まえたうえで議論すると、より現実在即した内容になるのではないかな。
- ・①地域の小中学校の取組について、少人数の地域だからできたのではないかな。②老人会と、自治会との連携がうまくいっていると感心した。

9 分科会 新たな取組が求められる人権問題

- ・様々な問題があり、今後も課題が山積みだと感じた。今回参加させていただき、実践を聞かせていただき、参考にしたいと思う。どの課題もそうだけれど、学校教育で子どもたちだけを対象にしても十分ではなく、保護者、地域へも啓発が必要だと感じた。特に新しい課題は、学校だけでなく社会全体で取り組んでいかなければならないと思う。
- ・昨今、子どもたちを取り巻く環境は、激変していると感じた。その中に潜むさまざまな危険から身を守るためには、教育職だけではなく、親御さんや地域の人々、多文化サポーターやスクールカウンセラー等、周囲の大人の力が重要になってくるのではないかな。自分たちにできることは、他者のことを理解し、ちがいを知ったうえで受け入れていく姿勢をもつことではないかと理解する。
- ・スマートフォンの普及により、SNS教育を学校や家庭で実施することが必要になってきているのだと感じた。ジェンダーとセクシャルマイノリティを同一視するのは危険だとの意見は、強く印象に残った。役場としてもセクシャルマイノリティについての配慮がすぐに思いつかないように、町としての問題意識が低いように思われるため、できることがあるのか検討していきたい。
- ・仕事で取り組んでいるジェンダーについて様々な考え方を聞くことができた。地域における男女の性別役割分担意識、潜在的な男女差別は進んでいるようで、まだまだ啓発が必要。トランスジェンダー、LGBTなどの多様性を知ることも学校現場だけでなく、社会においても大人が知り、受け入れ理解していかなければならないと感じた。
- ・分科会では、考えさせられることがたくさんあった。勉強になった。ただ、障がい者、SNSの人権侵害、虐待やDV等のお話は出て来なかったのが、そういった方の実践報告がなかったのが残念だ。

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

- ・私の考えの及ばないところも話が聞けて、たいへん勉強になった。いろんな地域の方が集まって話をするのはとても良いことだと思った。
- ・LGBTQ、セクシャルマイノリティについては、近年急にクローズアップされてきて、教育現場でも家庭、地域でもどう子どもたちに伝えるべきか、それを受け入れられる社会をどう構築していくべきか、手探りの状態にある中で先進的な取組をされていてとても良い発表だった。(考えさせられることが多かった) スマホ等も、保護者世代では、生れた時から携帯があり、今一つ危機感にかけられる様に思う。
- ・LGBTに関する「自分らしさ」「多様性」の大切さと、実践の難しさを感じたが、積み上げたい。
- ・参加して、毎回たくさんのことを学んでいます。是非、職場の仲間も参加して欲しいと考えます。一度も参加していない人がいない職場になると良いと考えます。
- ・たいへん勉強になりました。時代の流れとともに取り組まなければならないと思われることが、増えていると思っていましたが、「自分らしく生きる」ことが大切だと再認識した。
- ・都会から田舎までSNSや携帯端末の使用や指導の仕方について様々な考えの下で多くの取組がされている中、大筋や目的は大体一致していることや自分がまだ至っていない点について多く学習できた。また、LGBTQについての報告は、地域格差や世代格差が根強く残っていることが確認できた。これが機会になって、もっと、大々的に広まって欲しい。
- ・発表者の研究授業を真似て自分でもしてみたいと思った。まだまだ私の学校では、セクシャルマイノリティなどのことを考えることが遅れていると感じた。

10分科会 地域をつなぐ自主活動

- ・分科会3本の報告で、50分しかなく、もっと討議時間が欲しかった。内容についても時間がなく、思いを十分に参加者に伝えることができなかった。とても残念である。司会者がもっと上手く運んで欲しかった。意見がたくさん出るように報告したのに、多くの意見をもっと出して欲しかった。
- ・部落差別は今でもあります。1回目の発表にもあったように、学校だけに任せるのではなく、親たち家庭でも話をする正しい知識を子どもたち、地域、学校へと広めれば良いと思う。これからも活動を通して、正しい知識をもつ子どもたちを育て、差別に負けない子どもが育ってほしい。差別に負けない子どもが育って欲しい。
- ・勉強研修は、参加させていただくと、とても勉強になり繋がりができる。これからも楽しく続けたい。
- ・今回初めて参加した。私自身が、しっかりとこれから学んでいかなければならないと思った。今回の大会を第一歩としていきたいと思う。自分自身に向き合っていくこと、自分事として考えていくことが大切だと強く感じた。できるだけ足を運び、いろいろな方の話を聞く機会を大切にしたいと思う。
- ・初めて参加して、部落差別解消に向けて一生懸命取り組んでおられる方々の思いを強く感じた。それぞれの課題がある中でも、子どもたちのために前を向いて歩みを進めていることに心を動かされた。
- ・部落問題に焦点化した分科会で充実していた。
- ・部落差別についての発表、勉強会でした。私たちの住んでいる但馬では、近年このような問題を扱う勉強会はなくなったように思う。他の人権問題になったのは、部落はもう勉強せんでもええことなのか？今さら掘り起こさない方がいいのか？
- ・それぞれの意見が出て活発だった。同和問題もなくなると思う。今、混ぜ込んでいて人として立派になれば、同和であるとかないとか関係ない時代が遅かれ早かれ消えていくでしょう。これは、これからも

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

このようなことは、形がたがっても生まれないようにしていくべきだ。日本は、今恵まれている、世界には、このような人権差別は数多くあります。政治的手段もある。みんなこんなことがない方が良く考える人があります。

- ・私は、教員なので、大学の先生や他の地区・他校の先生方の実践発表を聞く機会はたくさんありますが、地域で活動されている方々の発表を聞くのは、これがほぼ初めてだった。お母さんたちの子どもを思う気持ちに心を打たれたと同時に、大人がしっかり勉強していわれのない差別で苦しむ人々が、この先少しでも解消されるよう正しい知識を吸収していかなければと痛感した。今日の貴重な機会に感謝。
- ・私は、地域での活動(イベント等)のお手伝いがきっかけで今回初めて参加させていただいた。教育関係の方が多く、私のような一般市民の参加者がもっと増えていけばいいと思う。そのためには、この分科会で発表されているような団体の活動が重要だと思った。
- ・皆様、立前は多くて、本音はどうか？先生方が大変だと思った。
- ・学校の教員としては、「正しい知識」「本当に大切にしたい集団づくり」の両輪が大切だと思う。課題は、一地域住民としてほとんど「同和問題を学ぶ機会があるということ」を知る機会があまりにも少なすぎるということだ。
- ・今でも部落差別のある実態を学ばせていただいた。私の勉強不足で、今も、部落差別のあることを再認識させていただいた。
- ・発表された地域は、住民を巻き込んだ部落学習が行われていることに興味もし、とてもうらやましく思った。自分たちの地域では、まだまだだなと思った。これからも地道に自分たちのやり方で進んでいきたいと思う。
- ・初めて参加させていただき、もっと若手教員が参加すべきだと強く感じた。たくさんの方の取組や願い、思いを直接感じることができる大切な場であると思う。
- ・若者たちへの継承。これは、大きなテーマだと痛切に感じた。
- ・部落差別の現実、未だに多くあり残されていると感じた。まだまだ正しいことを伝えていくことを、しつかり教えていくべきだと強く感じた。
- ・同対法制50年なので、振り返るとともにこれからの啓発、教育についての話し合いが欲しかった。
- ・実践報告が自慢話のように聞こえ、否定的な意見を出しづらい感じだった。もっと、話し易い会であって欲しい。

11 分科会 学校における自主活動

- ・家島の提案。情報モラルについて小学校からの発信で、幼小中という連携を巻き込んでという取組が素晴らしく、今後も続いて欲しい。多紀小の提案。統合により新しい校風を少しずつ作っているフレッシュさが、感じられた。自分を見つめ、周りを見つめ、取組を振り返り更に良いものが作れそう。阿弥陀荘の提案。発表者の人権意識の高さ、学校としての人権意識の高さを感じた。学びを(現場で、個人として)活かしたい。
- ・どの学校も子どもの現状に合わせたアプローチや取組をされていて、とても勉強になった。人権と一言に行っても、地域、学校、学級など様々な視点から進めることができると気づかされた。できることは、小さなことから取り組んでいきたいと思う。また、ピンチはチャンスととらえて人権の視点でもアプローチしていけたらと思う。

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

- ・各学校の様々な実践を知ることができ、興味深かった。まず、自分自身が人権意識を高くもつこと、学校現場で情報や知識方向性を共有することの大切さを実感できた。ありがとう。
- ・近くの先生方に教えていただくことが多く、勉強になった。子どもが自主的に活動するためには、先ず教師が見直す必要があるようと思った。
- ・同和問題に取り組んでいない学校もあると聞いて、驚いた。そういう職員の人権意識をどうやって高めていけばいいのか。
- ・私たちの周りの人権にかかわる様々な問題について意見交流ができて良かった。自主活動の分科会の話では、学校での指導に早く取り入れたいと思える実践も多かった。一方、自分自身の意識や知識もまだまだだと考えさせられた。
- ・地域によって人権意識にちがいがいることが分かった。新しい年号になって、意識や感覚を研ぎ澄ます必要があると思った。
- ・いろいろな取組や熱い話ができ、とても良かった。明日からの実践意欲につながった。
- ・たくさんのご意見を伺うことができ、たいへん勉強になった。ただ、学校の関係者が多いと話が人権とはちがう方向になりがちで、勉強にはなるものの、議論が深まらなと感じる面もあった。離れた地域であっても似た様な事例があると親近感を感じたり全く対応が異なっていて驚いたり、意味深い1日となった。ありがとう。
- ・各学校の様々な取組について伺い、たいへん勉強になった。私は、高校に勤務しているが、生徒の自主活動、人権感覚の向上をしっかりと考えていかなければならない。
- ・取組については、いつも勉強させていただき、感謝している。未来ある子どもたちに、いまある様々な人権課題に対して私たち大人が積極的に取り組み、良い希望がもてる社会にしていきたいものだ。
- ・「子どもの発信」の教育活動を大切に取組をされていた。参考になった。
- ・同和問題への課題が確認できた。しっかり実践していかなければならない。
- ・私自身の人権意識の低さを感じたので、参加してよかったとおもう。今日から感覚を高くしていこうと思った。

12 分科会 いじめ・不登校

- ・分科会での3名の実践報告を聞いて、いじめ・不登校に対する取り組みを学校全体でしていることに良さを感じた。いじめアンケートや教員での共有はしているけれど、いじめ0集団やスマホ携帯宣言など、学校で大きく取り組んでいることは、まだ、私の学校ではそこまでない。「いじめはいけないことだ」ということを改めて認識して、組織集団で動くことが大事だと感じた。
- ・今回、初めて参加したが参考になるお話をたくさん聞くことができて、ありがとう。今年、解放学級の担当になっており、同じ悩みをかかえる人のお話や、解放学級の果たす役割等、新たに得た知識を元にして今後に活かしたいと感じた。
- ・3つの報告を元にしいじめ・不登校に関する各市町の取り組みを聞くことができて良かった。学校は組織として、必要に応じて関係機関とも連携し、保護者に寄り添っていくことの重要性を改めて感じた。
- ・いじめの未然防止、早期発見に向けた取組で「いじめの定義」を児童にも確認することが大切であることを知った。また、学習の中で、主体的、対話的で、深い学び合い活動が、お互いを認め合うような機会となり、いじめ防止に効果的であると思った。更に、「いじめアンケート」を「困りごとアンケート」

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

と言い換えていたこと、児童が中心となった「いじめゼロ集会」もとっても良いことだと思った。

- ・各学校での取組を共有することで、たくさんの学びをすることができ、今後の教育活動に活かしていきたい。また、自分自身の人権意識の高揚に努めたい。
- ・人権の視点で子どもたちと関わるきっかけとなった。人権は人々が過ごしやすい生活を送るために必要である。これは、学級経営にも繋がる大切な考えだと思う。
- ・さまざまな人権課題について学ぶことができ、よい機会になった。
- ・厳しい状況にある子どもに対して、「そこにいてもいい」「学び直すチャンスがある」とどれだけ示せるのかが、大人の役割だと感じた。
- ・いじめ、不登校についてさまざまな立場からの意見を聞くことができた。子どもの世界と職員室の世界が繋がっているという意見には、納得できた。
- ・定時制高校の発表を聞かせて戴いてとても新鮮だった。
- ・分科会の生徒指導的な内容に進みやすいところを、司会者の方が人権の視点をぶれさせないようにして、良い分科会だった。若手の方も悩みも含め発言できて、充実した内容となった。
- ・「差別は見えないもの」ということを学ばせてもらった。多くの事例とともに現状と改善方法を知ることができた。
- ・結果を直ぐに求めるのではなく、「子どもをどう育てるか」という長期的な見方が大切。教員の共通理解も大切。
- ・素晴らしい発表や発言が聞けて、たいへん良かった。広域参加の大会の意義を感じた。多くの分科会を自由に選べるところが特に良い。自分の専門外の話から得られるものは大きいと感じた。
- ・人数が多くて、意見を述べにくい雰囲気があった。参考になる話があり、これからの自分のあり方を振り返る良い機会となった。
- ・話しやすい雰囲気づくりで分科会を運営されていたので、活発に意見が出された。なかなか中央大会に参加できなかったが、豊岡で開催されたので参加できる良い機会になった。
- ・たくさんのお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができた。いじめ・不登校は、昨今、かかえない学校はないので、一つ一つの取組が、考え直しや気づきになった。大会の関係者のご尽力に感謝。ありがとう。

13 - 1A 分科会 地域社会と行政A

- ・「隣保館」について、多くの当事者の話を生々しく聞くことができた。隣保館の当該地としてここを「知られたくない気持ち」と「忘れて欲しくない気持ち」が交錯している気持ちが生々しい。学習の効果として、少しずつ前進していることを感じた。
- ・隣保館の名称が変わっても、人権を中核に据えて交流することが大切だと思う。只のサークル活動の場になってはいけないと思った。教育と啓発が大事！
- ・パワーポイントによる発表説明が良かった。障がい者に対する健常者の対応も自主的援助が進んでいる様子。質問者は、端的に質問して欲しい。無駄な時間が多すぎる。遠くから参加しているメンバーの方のことも考えて欲しい。
- ・グループ討議だけに時間をとり、発表できなかった。
- ・分科会で人権のことについて真剣に考え、議論された。40年間参加された方が、「いつも同じ議論にな

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

っている」と言われたが、その積み重ねが大事だと思う。議論の過程を大事にしたい。

- ・たいへん勉強になり来年も参加したい。
- ・分科会では、熱心に取り組まれている方の意見を聞き充実していた。新しい人権者に向けての講座を計画されている地区等を参考にしたいと思った。
- ・討議の柱にそって話し合うより、実践報告を基に話し合いたかった。
- ・各地域によって人権の取組がだいぶちがっているなど感じた。サポーターとして人権に取り組まれている地域が多いと思った。役員を長くされているのならば、変わりばえがしないのでは？
- ・同和問題をもっと話すように司会が話して戴きたかった。
- ・地域に帰り、自主的に地域でできることを多くの人と関わり、実施して戴けたらと思う。

13 - 1B 分科会 地域社会と行政B

- ・取組を発信できる機会を得たことに感謝。また、新たな人の繋がりができて嬉しく思う。
- ・香美町の地区で20年以上にわたって人権や命の大切さを訴える演劇活動を実践されている報告は感動した。引きこもりや発達障がい者に対する周囲の理解、親の関わり方を変えることで働けるようになるという事例を聞いて、これからの大きな課題になるなどと思った。何をしても地域社会の支援が必要である。本人通知制度周知の取組の大切さがよく解った。
- ・本人通知制度、不正取得防止では、依頼者の公表ができる制度が必要と感じた。
- ・参加者は、どの方も真剣に討議されていて、とても良かった。
- ・「誰もが役割のある社会をめざして」での引きこもり支援の取組事例の発表について、現代社会が抱える問題に対する素晴らしい取組として静聴できた。
- ・他市町の様々な取組を知ることができて良かった。本日の内容を取り入れることができる部分は、取り入れようにしたい。「ジョブパートナー」の取組が良かった。

13 - 2 分科会 企業・職場

- ・質問者が限られていた。何か一言でもすべての方の意見等が聞くことができればよかった。
- ・人権の立場から課題を克服し、取り組まれている面を見聞きすることができた。
- ・行政の考え方を変えれば、多くの会社の働き方を変えなくてもよいのではないのか。人権問題は、上辺だけで判断できない難しい問題である。
- ・他企業の方々から、障害者雇用や有給休暇の取得状況が拝聴できてたいへん参考になった。
- ・他企業の人権教育活動が分かり、役立つ情報を得ることができた。
- ・企業内で部落問題に関する学習機会が減っていることが気になる。
- ・一番興味関心のあった内容で、民間の実践内容を聞き、いろいろな意見も聞くことができて良かった。

13 - 3 分科会 PTA 活動と人権

- ・良い分科会でした。もっと交流して話がしたかった。
- ・各地域で熱心に活動しておられる方々の報告や参加者の意見にふれることができ、大変有意義だった。
- ・いろいろな取組を知れて良かった。よりPTAの仲間との仲が深まった。
- ・日頃の生活の中に人権が当たり前にあり、特別なことではないと学ばせていただいた。

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

- ・発表ができたこともですが、他の発表と、それに対する皆さんの意見が聞けて良かった。また、他校のPTAも参考になり、ぜひうちでも取り組みたいと思うことができた。是非次回も参加したい。
- ・各PTA、楽しく充実した取組をされていると心に残った。PTA活動を通し、私は、やさしい人たちと出会えたことに感謝している。私自身がとても幸せな気持ちに人権を大切にしていただいていたのだと分かった。これからは、私も周りの方をと合わせを感じられるPTA活動に繋がっていききたい。
- ・他校のPTAが、人権活動に積極的に取り組んでおられることが分かりました。人権と考えると難しいが、他者のことを考えることと思う。
- ・「道徳＝人権」この部分が人権という考えでなく、生活全体が人権という考え方で、生活全般を見直していきたいと思った。子どもに対する言葉かけの仕方、見方で変わってくると思うので、子どもに話しかけるときに一呼吸してから話していこうと思った。
- ・今回参加させていただいて、いろいろと勉強になった。意見交換の時間がもう少しあればいろいろ話せたと思う。
- ・ガイドツアーの発見は、大きかった！
- ・中央大会ということで、兵庫のいろいろな学校の取組を聞くことができた。自分の学校でも活かしていきたい。
- ・日頃、人権に関して考える機会が少ないので、その機会になって良かった。生活すべてが人権活動につながっているという話が聞けて良かった。
- ・ディスカッションの時間が少ないように感じた。しかし、様々な型の意見が聞けて良かった。
- ・PTA活動の中に人権を意識すること。これから考えて、進めていきたいと思った。
- ・PTAの人権活動を知る機会が、今までなかったので良かった。保育所でPTAの発表は、難しいと思った。

14 分科会 人権文化の創造

- ・進んで人権教育担当者にならせていただいたので、こういう大会に参加することは、自らの考えの広がりにつながる。人権について考えることが、一部の者だけで行われているのではないように、教員の中で年に2回は、何らかに参加してもらっている。少しずつこうやってまいた種が、いつか芽が出ると思っている。意見は発言できなかった！申し訳なかったです。
- ・発表内容は、聞いていてよかった。参考になると思った。しかし、3本の発表で発表+討議が50分は、少し長いと思った。12:30スタートではなく、13:00または、13:30スタートで発表は、2本、または、発表+討議40分にしてほしい。討議は、素晴らしい内容だった。
- ・司会者、報告者たいへんご苦労様。人権課題は、自分事に捉えることが大切。そのため、いかにそういう気持ちにさせるかが、必要だと感じる。ありがとう。
- ・10数年ぶりに参加したが、あまり変化なし。学習内容に工夫を凝らして欲しい。外に向けて広がらない。今後については、学習内容を考えなければならないと思う。聞く学習から、行動、体を使う。
- ・他の分科会の様子は、分からないけれど、やや意見が出にくい雰囲気だったように感じた。参加者がその場で意見を出すのが理想だと思うけれど、事前に質問を考える、机ごと隣の参加者同士で議論の場を設ければ、より活発に意見が出てきたのではないかと感じた。
- ・同じ自治会（公民館）の内容について、組織やホテルについてお聞きできて良かった。冒険教育は、自

2019年 第66回兵庫県人権教育研究大会中央大会 兼但馬地区大会アンケート結果

分で気づくこと。自分でやるやらないかを決めることが学べてよかった。だんじりのお話も良かった。

- ・被差別地区の方で、何にも負けないで（就職差別、結婚差別）今も頑張っている方のお話に感動した。来年度からの道徳教育にも、十分気をつけたいと思った。
- ・特別報告終了から報告、司会者打ち合わせ会場での移動時間5分は、短かすぎる。途中、退席されたらいいです…と言われたでしょうが、報告者に対して、かなり失礼なことではないかと思った。全体会場から、打ち合わせ会場までの所要時間を事前に把握し、大勢が一度に移動するので、余裕を持った時間配分が必要かと思う。各地区の大会でも感じる。報告者は、報告文書を忠実に朗読し、補足説明は、朗読報告の後できるように徹底していただきたい。参加する者は、文書の中で自分の聞きたいこと、知りたいことを模索しながら聞いている。集中して報告が聞けない。どうしても説明したいのであれば、報告文の中に盛り込んでもらいたい。討議の時の時間を少しでも多く取れる配慮は、お互い注意すべきです。
- ・人権啓発について、交流や学習会、講演会とどの市町も行われていると思うが、地道に継続することが大切だと思った。参加率の低迷や価値観の多様化があるけれど、ベースは、地域のつながりが強固なことがキーになるのかと思った。同和問題は、たいへん根深いものがあると思うけれど、やはり続けることが大切だと再認識した。
- ・他市町の活動報告が行われ、参考になった。
- ・たくさんの参加者に敬意を表したい。建前が前で裏が見えなかった。
- ・部落差別に関し、今までと異なった視点での意見があったように思う。非常に良かったと思う。
- ・参加してよかったと感じた分科会だった。
- ・気づきを求めて、新たな課題を発見したいと参加したので、自分の中では満足している。
- ・3つのレポート、それぞれから示唆を受けるものがあつた。
- ・司会者の対応が上手くできていた。報告者の発表も整理され、分かりやすかった。
- ・遠かったけれど、参加してよかった。良い話が聞けた。
- ・分科会では、部落差別とその他の差別とのちがいを、はっきりというか改めて考えることができた。また、他地区のいろいろな取組を聞き参考にできるものがあり良かった。
- ・他の地区での人権教育について考えさせていただいたり、実際の事例も通した話も意見交流で出てきたりして、普段の学習では聞けない話を聞けてためになった。これからも自分の課題だと思って、人権意識を高めたい。
- ・他地区の方の様々な実態や意見が聞けて参考になった。今後も、人権教育に取り組んでいきたいと感じた。ありがとう。